



2026.3.20 第148号

年金局・「隠退教師を支える運動」通信

「神の言葉を語る務めに生きる」

東中国教区総会議長

服部 修

神さまからの召しに応えて生きることは、正直に言って喜びばかりではありません。苦勞という言葉では片付けられないほどの経験をするのも多くあります。それこそ、どうしてこのような苦勞を経験しなければならぬだろうかと思うこともあり、何が悪かったのだろうと考え込んでしまうことも少なからずあります。

先日、後輩の牧師と話しをして、いるときにも牧師として経験する苦勞話になったのですが、そのとき彼にこのように言われました。「先生が負っている苦勞は、先生がそれだけ伝道してきたからだと思っています。むしろ自分はそのほ

どの苦しみを経験していない分、まだ伝道に励みきれていないのだと思います」と。もちろん私自身は十分に伝道してきたとは思っていませんし、私の働きは十分だったと言えるようなものではありません。



服部 修 先生

せん。それでも後輩牧師からこの言葉をかけてもらったことが大きな慰めとなりました。

伝道するから苦しみも多く

なる。矛盾した表現かもしれませんが、伝道者は伝道に喜びと生きがいを感じているのはもちろんのこと、その分伝道することによる苦勞も背負っています。もう辞めよう・辞めたいという思いと、まだ足りない・まだやらなければという思いがいつも同居している。それが実感に近い感覚かもしれません。

預言者エレミヤもまた神の言葉を語り続けるゆえに人々から疎まれ、攻撃された人でした。そしてついには神の言葉を語ることへのためらいがエレミヤの中に生じます。だからと言ってエレミヤは神の言葉を語る務めから逃れられたわけではありません。逃れることはできません。その胸中をエレミヤはこうのように告白します。「主の名を口にすまい／もうその名によつて語るまい、と思つても／主の言葉は、わたしの心の中／骨の中に閉じ込められて／火のよう燃え上がります。押さえ

つけておこうとして／わたしは疲れ果てました。わたしの負けです」(エレミヤ20・9)と。

神の言葉を語るほどに苦しみは大きくなる。語る務めを放棄したい。でも語る務めを放棄することはできない。主の言葉が心の中、骨の中に閉じ込められているから。そして確かに神の言葉を語る務めは労苦ではありますが、心の中、骨の中に閉じ込められている神の言葉は喜びをもたらします。だから喜びを告げることから逃げ出せないのです。苦しむことがわかつていても、心の中、骨の中に閉じ込められている神の言葉の喜びが、神の言葉を語ることへと背中を押してくれるのです。かえって苦勞をいとい喜びを押さえつけているから「わたしは疲れ果てた」となるのでしよう。神の言葉を語ることへのためらいは神の言葉の喜びを押さえつけようとするゆえであると気づかされ

ます。そして伝道者は神の言葉の喜びに生きる者として、語るから苦しむということをやわかつていても、「神さま、わたしの負けです」と委ねて歩む希望を与えられているのだと言えます。

伝道者の生涯が喜びに満たされていると言えるのだとするなら、それは神の言葉を語る労苦の連続を引き受け、あるいはためらいながらもその務めを担い続けるゆえでしかありません。それは一線を退かれた教師も、現役の教師も、これから教師となろうとしている者も同じです。この労苦を担い続けるから喜びも大きくなるし、神の言葉を語り続ける労苦を分かち合い、しかし神の言葉に生きる喜びを分かち合うからその務めを果たすことができるのだと言えます。この希望の中で、神の言葉を語りつつ喜び、神の言葉を語りつつ労苦を重ね、そして神の言葉を語る者が後に続くことを願いながら、与えら

れた召しと務めに最後まで忠実に励みたいとの思いを強くさせられます。

(はつとり おさむ／

藩山町教会牧師)



「隠退教師を支える運動・1000円献金」

「隠退教師を支える運動」から

「クリスマス祝金」をお贈りしました

「隠退教師を支える運動」の業の一つとして、毎年12月に全国の運動参加者から、教団年金を受けておられない隠退教師並びにそのご遺族(配偶者)に「クリスマス祝金」をお贈りしています。

今年は教師・遺族合わせて

219名の方に、お一人3万円をお贈りしました。
毎年、感謝のお葉書をいただいておりますが、その一部をご紹介させていただきます。

(推進委員会事務局)

【教師の部】

*毎年ありがとうございます。「クリスマス祝金」感謝しています。相変わらず、オルガン奏楽・会堂そうじ・教会外回りの整備等に励んでいます。

*物価高騰のどまることを知らない現状の中にあつて、各教会伝道所の皆様の苦しい中から御配慮下さり、心より御礼申し上げます。

*クリスマス祝金ありがとうございます。毎日主の御言葉に生かされています。

*尊い御献金、心より感謝致します。末期がんと闘いの日々、多くの祈りに支えられています。ありがとうございます。

*私自身もあちこちに病を抱え、通院が多くなっています。クリスマスのお祝い金を頂きありがとうございます。

*教団も各個教会も個々人の暮らしも非常に厳しい時代になつていきます。そのような中でクリスマス祝金をお贈りくださり、ありがとうございます。

*乏しい年金生活ですので助かります。ありがとうございます。

*尊いクリスマス祝金、誠に有難うございます。キリスト教図書を購入して勉強しております。

*祝金はとても助かってます。ありがとうございます。

*貴い祝金をいただき、真に感謝にたえません。困難の多い時代に御言葉を宣べ伝える教会の皆様、祈りに、老いの身も祈りに加わって参りたいと切に願ひ、この恵みの祝金を生かしたく存じます。

*厳しい経済状況の年末に助かります。お祈りとお心遣いを心から感謝申し上げます。

【遺族の部】

*主人が長い間勤務しておりましたことも園のクリスマスのために使わせて頂きます。

*クリスマス祝金お送りくださり、ありがとうございます。今年も支えられ過すことが出来ました。

*皆様からの暖かい心を頂きまして、覚えてつづ用いさせて頂きます。不穏な時代の流れも感じますが、主を迎える時を覚えてつづ、元気に歩んでいます。

*母は高齢者施設に入居しています。少し認知症がありますが健康状態は良好です。クリスマスプレゼントで冬の服を母にプレゼントします。(長男)

*思いがけない大きな「クリスマス祝金」に大喜びしています。ましてや遺族にまで御配慮頂き深く感謝致します。亡き夫の喜ぶ様も見えるような気が致します。ありがとうございます。

*今年もクリスマス祝金をお贈りいただき、ありがとうございます。夫が召されて以来寂しさ、悲しさは消えることはありませんが、温かい贈り物に慰められ、勇気をいただいております。

*毎年嬉しいことに、私の誕生日にクリスマスプレゼントが贈られてまいります。感謝申し上げます。

*昨日の日曜礼拝で老眼鏡の度が弱いから買い求めようと思いましたが。皆様の尊い「クリスマス祝金」を用いさせて頂きます。

(二部抜粋、記載部分は原文のまま)

業 務 室 よ り

— 年金を受けている方へ —

年金給付のお知らせ

4月の定例給付のご案内をします。

送 金 内 容 2025 年度第4 期分給付
(2026 年1・2・3 月分)

送 金 日 2026 年4 月10 日(金)
期日に、ご指定の金融機関に入金されて
いない場合は、ご連絡ください。

次 回 送 金 2026 年7 月10 日(金)

連絡先・年金振込先の変更は、できる
限り早めに、書状、Fax、e-mail の何れ
かで、年金局までお知らせください。

☆12 月10 日の定例給付には、教師退職年
金、キリスト教教育主事退職年金、遺族
年金を合わせて、約1 億7 百万円を697
名の方々にお送りしました。

☆＝第43 総会期第3 回年金局理事会＝
1 月30 日(金) 教団会議室にて開催され、
北海道から九州までの理事、監事、総幹
事、東京教区支区代表、陪席者を含め27
名(内5 名オンライン) が参加しました。
常任理事会、前回理事会記録、委員会に
関する件が承認され、また、理事会オン
ライン参加者への議決権等の付与が承認
され、次回理事会より適用されることが
決議されました。その他、年金局資産運
用規則の一部改定、謝恩日献金に関して
名称や目標額の変更などについて協議す
る小委員会設置が、メンバー選任を含め
承認されました。休憩後は、教区代表理
事より報告がありました。

☆国内外の政情不安とそれに伴う物価高、
信徒数の減少、高齢化は、各教会、伝道
所の運営にも大きく影響している現状が
あります。教会、伝道所、教師、信徒、

それぞれの横のつながり、連帯がとても
大切になってきていると感じまし
た。

☆現況届のご提出をありがとうございました。
はがきに添えられた近況や労いの言
葉に職員一同、嬉しい気持ちで業務に取り
組んでいます。

☆現況届の提出がまだの方は、すぐに投函
をお願いします。提出後の内容の変更や
追加は、いつでも受け付けていますので、
遠慮なく業務室までお知らせください。

☆＝迷惑メールにご注意を！＝

最近、教団や教会関係者を装った迷惑メ
ールが届いています。実在する教会名や教
師名を語って「いま、〇〇にいらっしゃ
いますか？」など一文が送られてきます。
このようなメールには絶対に返信しない
よう気をつけてください。

☆教団では、出版局の事業整理と新会社設
立準備のため、会館3 階と4 階は多くの
人と物が行き来しています。3 階の業務
室からは、通常業務を行いながら忙しく
動き回る事務局、出版局職員の姿が目
に入ります。関わるすべての人の心と身体
の健康が守られ、教団の新しい歩みが祝
福されますよう覚えてお祈りください。

☆受難節の時を過ごしています。この数年
は、イスラム教のラマダンと重なるそう
です。「電話から爆撃音が聞こえ音信不
通になった。ラマダン中は水や食料の備
蓄が少ないので心配。」と祖国に家族を
残し来日している人のニュースに心が痛
みます。時期を同じくして、それぞれの
場所で特別な祈りを献げています。

(本田由紀子)

日 本 基 督 教 団 年 金 局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-31

Tel: 03(3202)2080 / Fax: 03(3202)2081

mail:nenkin@uccj.org

「隠退教師を支える運動」推進委員会

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-31

Tel: 03(3232)8005 / Fax: 03(3202)2081

mail:sasae100@uccj.org